

平成 29 年 8 月 10 日

芦屋市企画部市民参画課  
課長 山田 弥生 様

(あしや市民活動センター指定管理者)  
特定非営利活動法人あしや NPO センター  
事務局長 橋野 浩美

### 実施報告

- 1 事業名：夏休み！わくわくスペシャル チャレンジ・チャレンジ・チャレンジ
- 2 実施日：平成 28 年 8 月 1～5 日（火～土）
- 3 担当：橋野 出口
- 4 参加者数：子ども 201 人 団体 64 人
- 5 参加団体：12 団体（コープこうべ、商工会女性部、にろく会、宇宙少年団六甲分団、オンライン学びや、トミ&ヨシ、芦屋点字友の会、日本現代作法会、芦屋支部、遊遊、葉っぱリサイクル、あしやエコクラブ、Cool Kids club）
- 7 プログラム：16 コマ
- 8 振り返り
  - (1) 目的：

市民活動団体がプログラムを提供して、夏休みの間の子ども達の居場所をつくり、市民活動団体の活躍の場にする。（子どもの保護者世代へのアプローチ）
  - (2) 成果：
    - ・ 昨年度のリピーターが多く、保護者同士のネットワークの強さを感じた。他校の子どもたちと交流や、学年を超えての交流が多くあった。
    - ・ 複数日の参加者が多かった。
    - ・ おにぎり交流は、祖父母に近い年代との交流であったが、団体にとっては食材以外に、テーマや段取りに取組み、活力を得たとの感想があった。
    - ・ 学びの場の団体からは、子どもたちが熱心に受講してもらえ良かったと感想があった。
    - ・ わくわくスペシャルの後に「ふれあい C A F E」を開催していたが、後半は、子どもたち自らボランティア希望者があり、手伝ってくれた。
  - (3) 改善点：
    - ・ 他施設が同日に無料講座を開催したため、キャンセルが相次いだ日があった。他施設とのネットワークの必要性を感じた。
    - ・ 参加者が少ない日があったが、話を聞いて欲しい子どもも多くいることが分かり、適正な人数があるということを次回に活かしたいと考える。
    - ・ 次のプログラムまでの子どもたちの待機場所が必要。
    - ・ 学びの場の参加団体が、会員 1 人だったり、時間に遅れてきたり、自団体だけで準備できないところがあった。申込制にし、自団体で責任を持って完結できるような仕向けるようにする。
    - ・ スケジュール管理ができていない団体が多いように感じた。その辺りも支援できるプログラムにする。

以上

【当日の様子】



1日：災害サバイバル（コープこうべ）



1日：ストロークライダー・飛行機  
（宇宙少年団六甲分団）



2日：おにぎり交流（商工会）



2日：読書感想文（オンライン学びや）



2日：楽しい折り紙カレンダー  
（トミ&ヨシ）



3日：お友達のお家に行ったら（日本現代作法会芦屋支部）



4日：英語で歌（CoolKids）



4日：打ち水（エコクラブ）

夏休みわくわくスペシャル参加者：宮川小学校3年生 大西みくらさん

